

きほくのまち人探訪

「鬼北町の魅力を歌にのせて全国へ」



たか た こういち
高田 光一さん

町内の自然や歴史、文化を歌詞に織り込んだ演歌「鬼北慕情」を歌う高田光一さん。鬼北愛をこめた手作りの演歌で鬼北町の魅力を全国に発信する活動を行っています。

歌うことが大好きだという高田さんは、カラオケをするため、お店に通っていたところ、偶然、歌を作っているという宇和島市の清家継巳さんに出会いました。「鬼北町を盛り上げる歌を作ってくれないか」と、出会ってすぐに高田さんが話をしてみると、清家さんはその依頼を快諾。清家さんが作詞、作曲を担当し、昨年11月末に「鬼北慕情」のCDが完成し

ました。歌は3番まであり、歌詞には鬼王丸や柚鬼媛、文楽などが登場します。

「鬼北慕情」は、ジョイサウンドで配信しており、全国のカラオケ店舗で歌うことができます。DAMでの配信や歌に合わせた振付の提案も受けているそうで、これからこの歌のさらなる魅力向上を図る予定です。

「今後は、イベントなどで歌を披露しながら、鬼北町の良さを伝えていきたい。また、暗いニュースが続く中、町の明るい話題として、地域に元気を届けることができたらうれしい」と、高田さんは笑顔で話していました。

ALTの鬼の里Diary ~ Devin編 ~

「Thank you to everyone in Kihoku Town」



7月末でALTを退任することになりました。2年間鬼北町で過ごし、皆さんのおかげでたくさんを経験することができました。

私には日本を離れて恋しくなる5つのことがあります。1つ目は田んぼを見ることです。ニューメキシコ州には田んぼがないので、きっとこの美しい景色を見たくなると思います。2つ目は、自動販売機です。アメリカよりも日本の自動販売機は便利です。売っている飲み物も大好きになりました。3つ目は、日本の食べ物です。特にうどん、そうめん、たこ焼きが好きです。

4つ目は、海の近くに住むことです。明浜の海でカヤックを習いました。これは、私にとって日本での最高の思い出の1つです。そして、最もかけがえない思い出は、鬼北町での仕事や小中学生の生徒、先生たちと過ごした時間です。遠足や運動会、毎日の学校生活がとても楽しかったです。

日本に住むことは、中学生の頃からの夢でした。夢が叶い、日本で生活することで成長することもできました。日本での生活を素晴らしいものにしてくださった、鬼北町の皆さんに感謝しています。

地域おこし協力隊活動日記

「さっそく商品開発に取り組んでいます」

地域おこし協力隊1年目

のぐち たかひろ
野口 貴博



着任してから早くも1カ月が経ちました。自宅の中ではカワゲラが飛び交うなど、松山市での生活では見かけることの少なかった虫たちと毎日格闘しています(笑)。こちらでの生活はまだ慣れていませんが、これからもっと鬼北での生活を満喫していこうと思います。

私の地域おこし協力隊としての活動は「商品開発」ということで、現在は主に乾燥機を使用した商品加工を行っています。今まで乾燥機を使用したことがなかったので、もっと知識をつけて今後の商品開発に尽力していこうと

思います。また、食用ほおずきは、とても魅力的な食材だと感じており、手に取ってもらえる商品を開発していきたいと思っています。

